

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）
支え合いバックアップ部会（B部会） 第1、2回支え合い体験会記録

日時	平成29年7月26日（水）13時～14時40分 平成29年8月16日（水）13時～14時40分	場所	清瀬けやきホール 会議室4
出席者	第一回目：柳原部会長、星野委員、近藤委員、村田委員、鍵和田CO、上垣氏 第二回目：内野副部会長、星野委員、村田委員、羽田委員、鍵和田CO、関口課長、 上垣氏、市実習生3名、社協実習生3名		

1 勉強会参加者について

- 第1回：7月26日（水）実施（参加者1名、アンケート実施せず）
第2回：8月16日（水）実施（参加者10名、アンケート回答者9名）

2 体験会の様子

第1回：案内が直前の11日となり、参加者1名。一方、参加者の生活の困り事について話合いが出来、会としては充実したとの意見が委員からあった。

第2回：H28フォーラム参加者7名。社協ボランティアセンター登録者3名。

3グループに分かれて体験と振返りを実施。約半数の方が、自分の地域でこのような体験会をやりたいとの回答をしており、次回につながるきっかけとなった。清瀬版のカードを追加して欲しいとの意見も複数上がっていた。



3 アンケート結果について

(1) 勉強会の内容はいかがでしたか

よくわかった	6名
わかった	2名
無回答	1名

(2) 支え合い体験ゲームについてうかがいます。

ア 支え合い体験ゲームをご自分がお住まいの地域でも行いたいですか？

行いたい	5名
無回答	4名

・思わないわけではないが、まだ地域の人と話す場がない

イ 行いたいと考えている地域について。

松山	下宿	旭が丘	中里
2名	1名	2名	1名

ウ 行いたいと考えている団体について

ご近所内で	自治会	特になし
4名	1名	1名

(3) そのように考えた理由について

- ・ 交流がほとんど無いのでこれを機会に
- ・ 身近で行きやすいから
- ・ 近所
- ・ 助け合いは大切なこと、コミュニケーションを取り合っていきたいと思います。
- ・ 楽しめそう
- ・ 新築の方が増えて、皆さんとのコミュニケーションがとりにくい。折角ご近所同志協力出来る関係が出来ればと思います。

(4) 生活支援コーディネーターや支え合うきよせ委員会に期待することを教えてください

- ・ 身近な問題で困った時、家の整理、愛犬の扱い（旅行等）、植木水かけ（旅行等）
- ・ 高齢化社会に向かって支え合いは重要ですので、このような勉強会をまた開いてほしいです。
- ・ 今すぐではないが、今後の期待
- ・ 地域で困りごとを頼みやすい環境づくりをして頂きたい

(5) 現在活動をしている／これからしようと思っていることで、悩んでいることや相談したいことがあればご記入ください

- ・ 現在、精神障害者のケアをおこなって居りますが地元清瀬でも活動が出来ればと思います。
- ・ 社協の活動の一環としての活動の手伝いかなと考えてました。清瀬市介護サポーターと云った活動なのかと。
- ・ 老人ホームでのボランティア
- ・ 今回の主訴とは違うかと思いますが、子供さんの悩みについての相談会を行っています。これから地域の高齢の方々の支援が出来ればと思っています。

4 グループ内で話し合われた内容について

- ・ 頼みたいことがカードになっているので、助けてほしいことが頼みやすかった。
- ・ カードを交換していて、最初は助けることが難しいと思っても、よくよく聞いてみると「これならできるな」というものもあった。
- ・ 頼まれることで、「人の役に立ってるんだ！」という思いを感じる事ができた。
- ・ コミュニケーションを深くとることができるのがよかった。
- ・ 困ったことも、今日のように話し合いながらでも一緒に楽しめればいいなと感じた。
- ・ 自分の経験が人の役に立てることも知った。
- ・ カードにはない困り事もあった。そうしたものを新たに追加してもいいなと感じた。
- ・ 助けてほしいことをお願いするとき、伝え方などの工夫が大事だと感じた。
- ・ 個人と個人でカードの交渉をした後、グループ全体で再度確認すると、「これくらいでよければ助けるよ」と言ってもらえることができた。コミュニケーションが深まっていくとこういうこともあるんだなと感じた。
- ・ 良かれと思って助ける場合にも、個々のやり方によっては、責任問題になってしまうこともあるのが難しい。
- ・ 困り事が明確化（具体的だと）されているとお願いされるほうも引き受けやすくなると感じた。
- ・ 「着付け」を交換することができなかった。

- ・男性は表に出ていきづらい。対面ではなく、横並びで過ごすことのできる場などがあるのでは。東京駅などでは、男性のプライベートスペースなどが確保されている。
- ・「アイロンがけ」という困りごとが、昔の知恵などを使うことで他の代替案で解決することができる場合もある。高齢者と学生とで楽しく交流ができた。
- ・情報交換することができる場を多くつくることが重要だと感じた。
- ・既存の施設を活用して、定年後も稼ぐことのできる場をつくることが重要ではないかと感じた。

5 支え合い体験会のふりかえり（委員と事務局、学生）

【第一回 支え合い体験会】

- ・カード交換を通して様々な話を聞くことで、地域を知ることができた。（ドイツ語音楽が趣味のご主人の話を聞いて）何か解決につなげられないかと思った。
- ・1人でもやる価値があった。
- ・介護予防だけでなく、生きがいとニーズがマッチングも重要だと感じた。
- ・元気になる活動は人によって様々。趣味の活動が子ども支援につながっていくこともあるのではないかな。
- ・（支え合うきよせ委員会の役割について書いた資料について）何かの団体に所属している人にとっては生活支援コーディネーターの活動がわかるかもしれないが、特に何も行っていない場合には理解が進まないかもしれない。誰にでもわかってもらえるよう、説明の内容を変えていくべき。
- ・時間的な兼ね合いもあるので、説明資料の参考資料は説明しなくてよいのではないかな。

【第二回 支え合い体験会】

- ・グループ内には堀田先生のフォーラムの時から来て下さっている人もいた。自分自身、醤油がなくなった時などにお隣さんの家のピンポンを押してもらうことができるかという難しい気もする。助け合いを実際の活動に移すことができるかどうかの難しさを感じた。
- ・前回は一人の話を深く掘り下げることで、支え合いの話に広げていくことができた。今回は、実習生が入ってくることでリラックスして話し合いをすることができたと思う。若い人と交流する場がないと言われるが、こういった場に地元の大学の学生が入ってくるよう関心を持ってもらえるといいと思う。
- ・役に立ちたいけど役にたてる場がないという意見が印象的だった。そうした人達の思いにこたえられるような場が必要。また、出てきた課題にどう対処していくかも考える必要あり。
- ・対面式ではなく、横並びで集まってくるような、男性の居場所もある。会話がなくても集まれるような集まる場所があるといい。
- ・参加者同士でコミュニケーションを深め、関係性がつくれることからゲーム自体はとても有用だと感じた。また、二層単位での取り組みや場づくりなどの一つのテーマでこのゲームを行っても面白いのではないかな。
- ・清瀬市の資源などに即した清瀬市独自のカードゲームをつくってみてもいいのではないかなと感じた。
- ・普段、地域で活躍していることもあり、助けてほしいカードを選ぶのが大変なようにも見受けられた。グループ内でのファシリテートが重要だと感じた。
- ・今回は介護サポーターとして市内で活動している方にもきてもらったが、そうした人たちにもう一度入ってもらって、活動している人たちの思いの共有に使うのもいいのではないかなと感じた。
- ・石神井公園の方では、屋外で囲碁を行っている取り組みがある。そこにいけば何かができるという場所があるとよいのではないかな。